

平成29年10月15日

No.335

畜産会 経営情報

主な記事

- ① セミナー生産技術
黒毛和種繁殖雌牛の分娩間隔日本一を支える私たちの活動
島根県家畜人工授精師協会 石西支部
- ② おらが故郷の経営自慢
地域に根差し、地域と人を動かす 赤松省一さん(香川県高松市)の経営
行成 勝久
- ③ セミナー経営技術
きめ細やかな酪農が生み出す心いやすジェラートショップ
—沖縄県石垣市の有限会社伊盛牧場— 編集部
- ④ (独)農畜産業振興機構からのお知らせ
肉用牛肥育経営安定特別対策事業(牛マルキン)の補填金単価(概算払)について
- ⑤ あいであるアイデア
場所を選ばず安定的に設置できる補液台
(独)家畜改良センター 十勝牧場

公益社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
第2デューアイシービル9階
TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890
URL <http://jlja.lin.gr.jp/cali/manage/>
E-mail jlja@jlja.jp

セミナー

生産技術

黒毛和種繁殖雌牛の分娩間隔日本一を支える 私たちの活動

島根県家畜人工授精師協会 石西支部

私達の支部紹介



島根県家畜人工授精師協会石西支部は、広島県と山口県に隣接する県西部にあり、日本海に面した中山間地域で、益田市、津和野町、吉賀町の1市2町を活動範囲としています。会員は18人で、職種はJA職員、JAの嘱託授精師、自営業者、牧場従業員とさまざまです。毎年、総会と懇親会を開催し、活動方針を定めるほか、会員相互の交流や情報交換を行っています。

管内では西いわみ和牛改良組合員63戸が、

県内飼養頭数の18%にあたる1525頭の黒毛和種繁殖雌牛を飼養しており、受胎率の向上を図るため関係機関とともにさまざまな取り組みを長年にわたり行ってきました。そうした取り組みの結果、同組合の分娩間隔は、平成21～27年度に375.0日～384.8日の間で推移し、(公社)全国和牛登録協会より7年連続で「分娩間隔の部」全国上位15組合の表彰を受けました。特に平成24年度からは4年連続で全国1位という成績を収めています。そこで、黒毛和種繁殖雌牛の分娩間隔日本一を支える私たちの活動を紹介します。

30年前を振り返ると



平成元年ころ、管内の繁殖雌牛飼養農家戸数と頭数は約500戸で960頭と、戸数は現在の8倍もありましたが、このうち76%は1～2頭飼いの小規模でした。現在は農家戸数が激減したにもかかわらず飼養頭数は1.6倍にも増えています。昔のことなので繁殖雌牛の飼育管理もいろいろだったのでしょう。子牛は生後5～6ヵ月齢までは親牛と一緒に飼育するのが一般的であり、当然のことながら空胎日数は145日と長く、生産率も県平均が83%であるのに対し、管内は76%と低い成績でした。

繁殖牛の情報管理システムを必要とした理由



管内の県機関である益田家畜保健衛生所では、受胎率の向上を図る目的で管内全地区の巡回指導を実施するにあたり、問題となる農家や繁殖牛のデータを抽出するため、平成3年度にパソコンを活用した繁殖牛情報管理システム（以下「繁殖管理システム」）の運用に取り組みました。繁殖管理システムには管内全戸全頭の繁殖に関するデータが蓄積されており、そのデータに基づく関係機関による繁殖牛の全地区巡回を平成3年度から開始しました。

繁殖管理システムとは



一方、平成3年度にはパソコンを活用し、石西地区農業共済組合（以下「NOSAI」）の繁殖雌牛台帳を基本として、繁殖に関する各

種情報の入力を行いました。

入力項目は、畜主の住所氏名、牛の名号、生年月日、血統、授精月日、交配した精液、妊娠鑑定月日と妊娠の可否、分娩月日と子牛の性別、繁殖に関する初診月日など、多岐にわたっています。また、牛肉トレーサビリティ法が施行されてからは、牛の個体識別番号も入力項目に加わりました。

システムの構築



繁殖管理システムの入力作業はNOSAIと家畜保健衛生所で行っています。授精情報は、われわれ家畜人工授精師がNOSAIへ報告し、データの入力・更新が行われます。また、家畜診療所はNOSAIへ妊娠鑑定と診療の報告をします。さらにNOSAIは分娩予定日が近づくと該当農家へはがきで予定日を通知し、分娩に備えるよう連絡します。分娩すれば農家から連絡を受けた市町・JAはNOSAIへ報告します。また、全地区巡回の前には、家畜保健衛生所は繁殖データをNOSAIから受け取り、巡回指導に必要な情報を出力し、さらに巡回指導後には得られた情報を入力します。

システムの活用 （巡回前の繁殖情報の出力）



各市町の巡回日が決まると、家畜保健衛生所は巡回の日付に合わせて繁殖情報一覧を出力し、JAと市町へファックスします。情報には市町の全戸・全頭の繁殖牛が記載されており、牛ごとに巡回指導で確認すべき事項が見て取れます。授精35日を経過した牛は早

期妊娠鑑定、60日を経過した牛は確定妊娠鑑定、分娩日が近い牛は分娩チェック、分娩から40日を経過した牛はフレッシュチェック、分娩60日を経過して未受精の牛は未受精として、この繁殖情報から巡回に必要な情報は全て確認できます。繁殖情報一覧を受け取ったJAと市町は、互いに協力しながら農家へ連絡を取り、巡回を迎えることになります。

繁殖巡回の構成員と役割分担

繁殖巡回の構成員は家畜保健衛生所、農業普及部、家畜診療所、市町、JA、家畜人工授精師であり、その役割は次の通り（表1）です。

（表1）繁殖巡回の構成員と役割

家畜保健衛生所	巡回の進行管理、早期妊娠鑑定、防疫・衛生に関する検査・指導
農業普及部	飼料給与指導
家畜診療所	確定妊娠鑑定、繁殖検診
市町	補助事業等の説明、連絡事項
JA	生産検査、除角、連絡事項
家畜人工授精師	牛の状態確認、授精業務

農家での指導

農家の庭先では、繁殖情報一覧を確認しながら、検診などを行います。分娩間隔を短縮するには、分娩40日以降のフレッシュチェックが重要ですので、まずは農家の方に発情を確認したかどうかを尋ねます。しかし、「わからない」という返事が多くあります。

直腸検査すると卵巢に黄体が確認できるこ

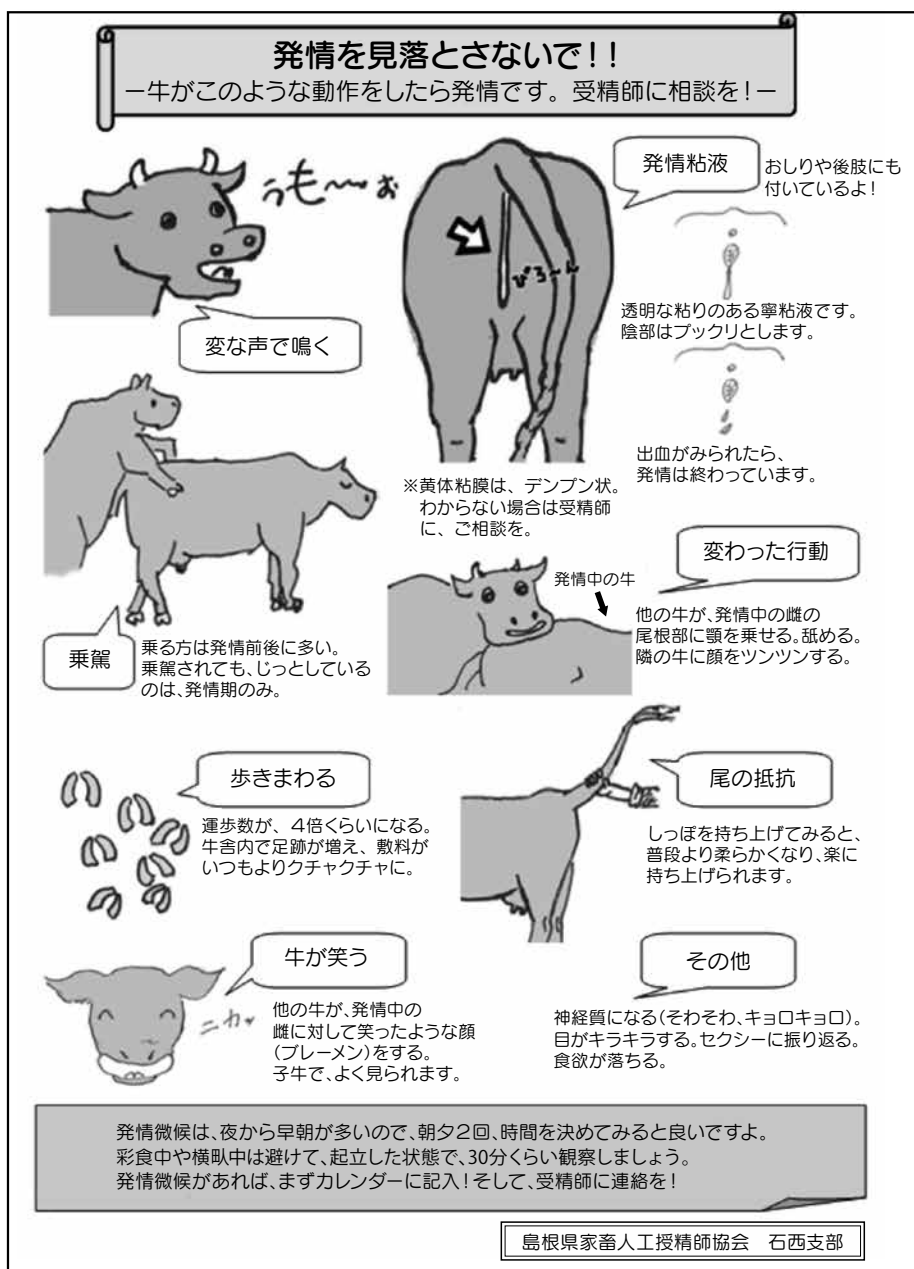
ともよくあります。「発情があったはずけどなあ?」、触診時に外陰部から粘液が露出することもあります。よく見ると臀部に粘液らしきものも付着しています。「最近の牛は鳴かなくなったなあ」という農家の方の言葉を20年以上聞き続けているような気がします。牛が発情すればさまざまな兆候を示すことから、われわれ家畜人工授精師協会石西支部では、発情発見の一助になればと「発情発見のためのリーフレット」（図1）を農家に配布して、発情兆候について説明したこともありました。

フレッシュチェックでは、触診することで子宮や卵巢の状況を把握して、次回発情の予測を立てます。場合によっては家畜診療所が治療することもあります。われわれ家畜人工授精師も直腸検査することで状況を確認し、授精の参考にします。仮に発情中であれば、その場で授精することもありますし、翌日授精という場合もあります。

妊娠鑑定は授精35日以降から超音波妊娠診断装置で早期妊娠鑑定を行い、60日以降で再度、確定の妊娠鑑定をします。牛の栄養状態が悪ければ農業普及部が飼料の給与指導を行い、必要があれば粗飼料の栽培指導も行います。そのほか、放牧する牛の衛生検査や除角、去勢、生産検査など、この巡回では何でも行います。

繁殖巡回の成果

繁殖管理システムを活用した肉用牛繁殖巡回の効果としては、①フレッシュチェックを



(図1)発情発見のためのリーフレット

はじめとして未受精牛や妊娠鑑定牛などを確実に抽出することで、早期の対応ができること、②獣医師と家畜人工授精師の綿密な連携により人工授精がスムーズにできること、③分娩、授精、診療等の情報が一括して関係機関で共有されるため地域全体としての対応がとれること、④飼養管理面で改善が必要な場合においても、関係機関とともにきめ細やか

な指導ができること—などが挙げられます。

長年にわたって行ってきた農家指導の成果として、所得を向上させるためには分娩間隔を短縮し、早期に種付けすることが最も重要だと認識されるようになり、西いわみ和牛改良組合では、分娩前後の飼養管理や早期離乳、また、発情観察について努力されるようになりました。

畜産定例会の開催



繁殖巡回が終了する月末には、畜産に関する情報を話し合う場として畜産定例会（畜産関係の担当者会）が開催されます。構成は巡回メンバーのほか、NOSAIや農林振興センターの総務企画部（補助事業等の担当）が加わります。繁殖巡回の結果についても成績や課題・懸案事項などの情報を関係機関で共有し、問題解決へ向けての話し合いが行われます。

おわりに



家畜人工授精師協会石西支部では繁殖成績

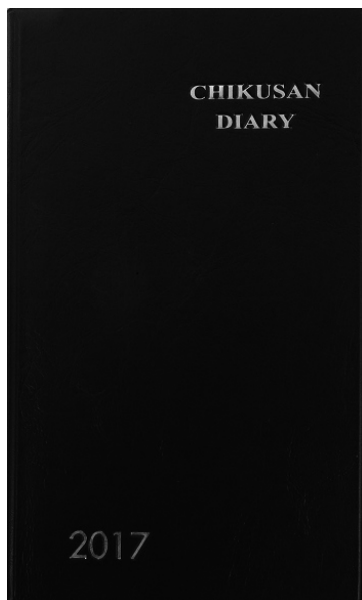
の向上を目指し、関係機関と協力し、さまざまな取り組みを行ってきました。その結果、管内の西いわみ和牛改良組合の分娩間隔を短縮させ、特に平成24年度からは4年連続で全国1位という素晴らしい成績を収めています。

巡回を始めた平成3年には全国1位どころか県平均にも至りませんでした。長年、関係機関が一致協力して連携、指導を続けることで、このような成果が得られました。これを励みとして、今後も関係機関や農家との連携を強化しながら、さらなる技術向上に取り組む、分娩間隔「日本一」を支え続けていきたいと考えています。

参考図書のご案内

2018年用 畜産手帳

—CHIKUSAN DIARY 2018—



■仕様

高級発泡シート（ポケット付き）、日記等2色刷
住所録・各種畜産関係統計資料等付録

■サイズ

140mm×80mm

■主な掲載内容

- 住所録（中央官庁・地方庁・畜産関係団体・会社・道府県畜産協会等）
- 各種畜産関係統計資料等
 - ・飼養戸数・頭羽数 ・生産・需給関係データ
 - ・主要国の畜産生産状況
 - ・家畜繁殖関係 ・飼養管理関係
 - ・家畜改良増殖目標
 - ・飼料関係（畜種別養分要求量、主要飼料養分早見表、種類別容積重量等）
 - ・営農関係（生産費、労働時間、固定資産評価基準、家畜ふん尿関係データ、施用基準等）
 - ・畜産物の価格（安定価格・販売価格の推移、取引規格等、家計消費統計も充実）
 - ・衛生関係データ
 - ・畜産関係融資制度 など

※写真は2017年用のものです

○お問い合わせ・お申し込み先○

公益社団法人中央畜産会 経営支援部（情報）

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-16-2 第2 ディアイシービル9階

TEL：03-6206-0846 FAX：03-5289-0890 Email：book@jlja.jp

おらが故郷の経営自慢

地域に根差し、地域と人を動かす

赤松省一さん（香川県高松市）の経営

香川県農業協同組合 行 成 勝 久

平成29年度全農酪農経営体験発表会で最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞した赤松省一さんの経営概要を紹介します。

地域の概要

牧場は県庁所在地である高松市にあり、高松空港からも近く、交通に便利な立地条件となっています。香川県内の酪農家戸数は78戸、飼養総頭数は4800頭（うち経産牛4000頭）、1戸当たりの平均飼養頭数は61.5頭となっています。

経営の特徴

(1) 赤松牧場の沿革

赤松さんは1968年に急逝した父から引き継いだ牛1頭で酪農を開始しました。1991年につなぎ牛舎をフリーバーン牛舎に増改築し、2003年には法人化を図って規模拡大を進めてきました。現在は経産牛125頭・育成牛80頭まで規模を拡大しています。

また、子どもたち（長男、次男、長女の3名）全員が後継者として、牧場事業・6次産業化店舗事業などの役割分担をしながら就農しており、家族・従業員一丸となって酪農経



発表する赤松省一さん

営を行っています。

(2) 乳用後継牛はすべて自家育成により確保

一般的には、導入方式と比べ規模拡大時の増頭には時間を要する自家育成方式ですが、性選別精液を利用（未經産牛にほぼ100%利用）することで増頭スピードを上げ、効率的に牛群を改良し、長期的に安定した酪農経営を行っています。

また、牛群検定に参加しており、乳質が低下

した牛や、乳頭の状態など作業性の良くない牛を淘汰し、作業性の良い牛を残すようにしています。

結果、乳量はもちろんのこと健康的で体格や乳頭の配置の良い、長命連産の牛を残しています。

繁殖の割合としては、F₁生産が10%、受精卵移植が5%、性選別精液30%、ホルスタインの通常精液55%となっています。

(3) 自給飼料の生産・利用

稲WCS生産組合を発足し、地域の耕種農家と連携して自給飼料に稲WCSを確保しています。生産から刈り取り、ラッピングまでは外部委託し、ラッピングされたものを耕種農家と酪農家で共同運搬し、利用しています。作付け面積は平成27年度は1ha、28年度は11haで、

29年度は15haに拡大しています。

また、飼料分析と設計を月に1回、コンサルタントに委託して実施しています。

(4) 6次産業化の取り組み

安全・安心かつ高品質な生乳を生かした加工品を直接消費者に届けるため、2010年に牧場の向かい側に直営店「ロイヤルファームアカマツ」をオープンし、ジェラートをはじめ、ソフトクリーム、プリンなどの牛乳・乳製品等を販売しています。また、地域の大型児童館にも店舗を持つことで、地域の子どもの食育にも貢献しています。

このように、常に消費者からの目線に立ち、徹底した美化・衛生管理を行いつつ、JA香川県等からの助言・指導により、乳質に直接かかわる飼料を細かくデータ分析・管理する



ハイブリッド式トンネル換気型の牛舎



育成牛舎

ことで、安全・安心かつ高品質な生乳の生産が可能となっています。

(5) 暑熱対策および防寒対策

牛の快適性（暑熱対策、牛床の乾燥等）を目的として、牛舎内上部に大型扇風機サイクロン12機と換気扇16機を設置したトンネル換気を取り入れることで、効率的に風が発生し、牛舎内が快適かつ衛生的に保たれています。

屋根材にダブル折板工法を採用したことで、通常の屋根材よりも高い断熱効果を持ち、暑熱対策にも防寒対策にも有効な構造となっています。

牛床は毎日朝夕の2回清掃を実施し、清潔を保っています。また、一般的な牛床マットと比較し2倍程度厚みのあるもの（5cmほど）を採

用しており、牛体への負担を少なくすることで、カウコンフォートの向上にも取り組んでいます。

地域とのつながり



赤松牧場がイニシアティブを発揮した耕畜連携・循環型農業のスキームが、地域一帯へ定着しています。近隣の耕種農家（稲・野菜・果樹）へは、使い手のニーズに合わせて水分量や発酵度合を調整した熟成堆肥を、植物の「エサ」として供給しており、農産物の高品質化や収量増加に寄与しています。一方でその耕種農家からは、稲 WCS を家畜の「エサ」として供給してもらい、より環境に負荷を掛けない酪農を実践しています。

また、赤松牧場が堆肥の調整から農地への堆肥の搬入・散布まで行うことで、耕種農家

の負担が軽減され、より円滑な耕畜連携が可能になっていると考えております。

当初は、赤松牧場と一部の耕種農家との取り組みでしたが、JAや県・市等を巻き込みつつ耕畜連携・循環型農業への理解醸成に粘り強く取り組んできた結果、この考え方に賛同するたくさんの耕種農家や畜産農家が集まり、大きなムーブメントとなりました。良質かつ安全な堆肥を利用して生産された地元産の果実をジェラート原料として使用することや、意欲ある若手園芸農家とタイアップし、稲WCSの収穫後の空いた期間を利用してブロッコリーや菜花、青ネギなどを生育する作付体系が考案されるといった、より農業を盛り上げようとする地域の人々が主体的に考え、行動する大きなきっかけとなりました。



受精卵移植で黒毛和種の子牛和種も実施



牧場の向かい側にあるジェラートショップ





牛舎外観

今後の目標



経産牛300頭・育成牛200頭体制の構築に向けて、2010年より建築土地の確保を開始し、2016年には、2015年度の畜産クラスター事業を活用し、視察したアメリカで導入されている、牛の快適性を追求した300頭規模のハイブリッド式トンネル換気型のフリーストール牛舎を建設しました。

今後はパーラー等周辺施設の整備を行い、TMR 製造施設および乾牧草倉庫の建設、育成牛舎および堆肥センターの増設等により、規模拡大に向けた環境整備や、より一層の低コスト化・耕畜連携を進めていきたいとしています。

また、都府県酪農のモデルになるような牧場経営を行うとともに、乳製品製造やレストラ

ン事業を展開する牧場テーマパーク「赤松マルシェ」のプロジェクト等の事業拡大も目指しています。

以上のように、赤松牧場は地域に根差し、地域とそこで生きる人々と共に前向きに考え動くことで、経済的なつながりに留まらず、人と人とのつながりを生んできました。増頭する環境の整っていない無理な規模拡大をせず、酪農経営が与える周辺の農地・環境のキャパシティを考え、第一に地域農業全体の活力を創造しています。今後も、自らもハイレベルで安全・安心な高品質生乳を生産し、原料としての価値を高めていくことで構造の変革を目指しており、その一環として、今後JGAP 認証の取得に向けた取り組みも目指しています。

(筆者：香川県農業協同組合酪農振興センターセンター長)

セミナー

経営技術

きめ細やかな酪農が生み出す心いやすジェラートショップ

— 沖縄県石垣市の有限会社伊盛牧場 —

編集部

観光客も必ず立ち寄る人気店



沖縄本島から南東に410kmの位置にある石垣島は、八重山諸島の玄関口として国内外から観光客が多く訪れる島です。観光業のほか、島内では肉用牛を中心に畜産が盛んで、近年は山羊も肉需要の増加から飼養頭数や戸数が増えています。一方酪農に限っては、ジャージー牛を少数飼養する農家4戸を含めて計6戸と少なく、年間平均気温が25℃の亜熱帯のこの地域では、暑熱に弱い乳牛を飼う難しさがあります。

こうした条件不利地域にあって有限会社伊盛牧場は、暑熱に対応した牛舎整備や牛群育成で、酪農経営を伸ばしてきました。さらに平成22年からは、地域で派生する出荷できない規格外の果実や野菜の有効活用で、ジェラート

の製造と販売を始めました。ジェラートショップは今では牧場近くに建てた1号店のほか、新石垣空港内にも2号店を出店し、島民はもとより、石垣を訪れる観光客が必ず立ち寄る有名店となっています。

条件不利克服の酪農経営で
天皇杯受賞

こうした酪農経営の手腕と、農産品や雇用という地元資源を産業と結び付けた地域貢献の姿勢が評価され、同牧場は平成28年全国農業コンクールでグランプリを獲得したほか、同年秋には第55回農林水産祭の畜産部門で天皇杯を受賞する栄誉に輝きました。

現在は成牛70頭、育成牛20頭を9.7haの牧草地を基盤に飼養しています。牧草は年5～6回刈りができる地の利を生かし、ギニアグラス



3方ガラス張りのジェラートショップ(左)と加工販売所。
「ミルクのミル」「景色を見る」を合わせて店名は「ミルミル本舗」

とローズグラスの混播を中心に低水分のロールボールサイレージで処理し、自給粗飼料100%を実現しています。牛群も平均産次数2.7産、経産牛1頭当たり乳量8000kgと優れた成績で、6次化の発展もあり、酪農生産と製造加工販売部門に従業員30人を雇い入れ、年商1億円以上を上げています。

17歳で肉用牛経営開始



そんな華麗な経歴を持つ伊盛牧場代表の伊盛米俊さんですが、「実家は酪農とは縁のない漁業でした。たまたま中学のときに、友達の家の馬を連れ出して野山を駆け回ったら、（現在店舗が建つ）この小高い丘からの風景に魅了され、この景色を見ながら仕事がしたいなあ。そうだ牧場をやろうと思い立ったのです」と明



常時12種類のジェラートを置く



地元の人や観光客で1年中にぎわうショップ



右から6次化の要を担う長男の圭吾さん、販売をまとめる嫁の洋子さん、孫のナツメ君、米俊さん、加工を引き受ける妻の京子さん。家族が力を合わせて経営を担う

かしてくれました。

願いがかない、畜産用地を取得し、17歳には黒毛和種1頭からの肉用牛経営に挑戦しました。徐々に頭数を増やしていった11年後、30頭規模になっていた経営を、和牛より安定した乳価が望める酪農に転換しようと自ら転換を図ります。まず、ホルスタイン牛2頭を沖縄から導入し、その後の増頭分は北海道から導入していきましました。しかし、暑さで弱る牛が続出し、廃牛も多く出て、さんざんな目にあってしまいました。

酪農へ転換図り、痛感した暑熱対策



「この時の反省があって、暑熱対策の必要性を痛感しました」と伊盛さん。早速、牛舎などの飼養管理改善と、暑さに強い牛作りに取り組みました。構造改善事業で平成17年に建設した74頭用牛舎は、見事なまでに計算しつくした暑熱対応の設計になっています。

牛舎は、牧草地の中で最も風の通る土地を選び、その上で台風の強風を避けるため、一段低くした斜面の中腹に建設しました。さらに牛舎自体も東西に長く伸びる構図とし、西日が夜8時まで射し込む石垣島にあって、まったく西



吹き抜ける風が心地よい舍内

日の入り込まない設計になっています。頑強なコンクリート製で壁はありません。風を通すためと、台風のような強風が内側に入り込んで屋根を飛ばさないようにするためです。ミストも2頭に1個の割合で設置し、送風機も牛の背中に風が当たるよう設えています。

飼養管理に向けた細やかな視線

夏の気温の高いときに取材にお邪魔しましたが、牛舎に吹き込む風が心地よく、蠅もほとんどいないのには驚きました。「牛舎内を常に風が動いているからね」と伊盛さんは言います。

その上、牛舎内外が実にきれいに整備されていることに感心しました。牛舎周囲だけではありません。公道から牛舎に至るアプローチ、牧草地の周囲まで、道端や畔の草まですべて



牛舎は東西に長く西日が入らない設計

きれいに刈り取られているのです。

こうした隅々にまで向けた視線が細やかな飼養管理に結び付き、牛群にもストレスを感じさせずにいるのでしょう。自家育成で暑さに強い牛群づくりも並行させており、現在経産牛1頭当たりの乳量など生産成績は、本州並みの水準を保っています。

ジェラートと共に景観も味わって

ジェラートショップ1号店は牛舎から300mほど離れた、海に張り出した小高い丘の上にあります。伊盛さんが魅了され、牧場経営を志した場所です。眼前に広がる海の展望は180度以上。周辺の美しく刈り込まれた緑の牧草地と青い海、青い空のコントラストにショップの白壁が映えます。ジェラートとともにこの景観も味わってもらいたいと、伊盛さんや従業員は毎日草刈り機を抱えて周辺を整備しています。こうした気配りが訪れる人をなごませ、リピーターをどんどん増やしています。

ショップに立ち寄るほとんどの人は、外のテラス席でベンチに座り、景色を眺めながらゆったりとジェラートなどを楽しんでいます。観光客だけでなく島民の憩いの場でもあり、多い日には1000人もの人が訪れるそうです。

今年2月にはショップの隣に加工販売所を増設しました。そこには食育学習のスペースも作られました。建物自体は、ジェラートショップのイメージを壊さないよう、似た雰囲気で作られています。今後は子どもたちの食育にも、地域の農家と提携した商品開発にも一層力を入れていきたいと、夢が広がります。

畜産映像情報 がんばる！畜産！



日本中央競馬会
特別振興資金助成事業

今、畜産業は担い手不足や国際化の進展など、大きな変化の局面にあります。そんな中、飼料を自ら生産したり、省力化を図ったりと、さまざまな工夫で素晴らしい経営を行っている生産者がたくさんいます。

このサイトでは、そうした各地の優れた畜産経営や、後継者の活躍、おいしくて安全な畜産物を消費者の方々に届けるまでを映像で紹介します。この映像情報を生産者の方へもとより、消費者の方々と共有することで、元気で健全な畜産の発展につなげることを目指しています。



生産者向け



生産者・消費者向け



消費者向け

畜産トレンド発見！ ドキュメント！畜産の新主役たち なるほど！畜産現場



NEW

全36本を配信予定！

現在配信中の内容：天皇賞受賞

伊盛牧場（酪農経営 沖縄県

石垣島）／口蹄疫からの復興

香川畜産（養豚経営・宮崎県川

南町）／全国畜産縦断いきいき

ネットワーク全国大会など



WebサイトURL:

<http://jlja.lin.gr.jp/ganbaruchikusan/>

公益社団法人中央畜産会

(独)農畜産業振興機構からのお知らせ**肉用牛肥育経営安定特別対策事業(牛マルキン)の補填金単価(概算払)について****[平成29年8月分]**

平成29年8月に販売された交付対象の契約肥育牛に適用する肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱第6の9および附則10の概算払の補填金単価について、表1および表2の通り公表しました。

また、平成29年8月に販売された生産者積立金の納付が免除された事業対象の契約肥育牛に適用する補填金単価については、表3の通り公表しました。

なお、補填金単価の確定値については、11月上旬に公表する予定です。

(表1) 補填金単価の算定(全国)

単位：円/頭

区 分	肉専用種(地域算定県を除く)	交 雑 種	乳 用 種
粗収益 (A)	1,179,531	659,930	437,196
生産コスト (B)	1,165,390	761,469	494,837
差 額 (C) = (A) - (B)	14,141	△ 101,539	△ 57,641
暫定補填金単価 (D) = (C) × 0.8	—	81,200	46,100
補填金単価(概算払) (D) - 4,000	—	77,200	42,100

注：平成26年4月分から、消費税抜きで算定しています。
100円未満切り捨て

(表2) 補填金単価の算定(地域算定県・肉専用種)※

単位：円/頭

岩手県(日本短角種)	広 島 県	福 岡 県	佐 賀 県	長 崎 県
—	—	4,800	18,600	29,400
熊 本 県	大 分 県	宮 崎 県	鹿児島県	沖 縄 県
38,900	15,700	—	13,500	—

注：各県の算定結果です。

(表3) 補填金単価(概算払)(生産者積立金の納付が免除された事業対象の契約肥育牛)

単位：円/頭

肉専用種(地域算定県を除く)	交 雑 種	乳 用 種
—	57,900	31,500

注：補填金交付額に見合う財源が不足する場合等、上記補填金単価を減額することがあります。

あいであ & アイデア

場所を選ばず安定的に設置できる補液台

(独) 家畜改良センター 十勝牧場

背景・ねらい

患畜の治療に当たっては、点滴による薬剤の投与が必要となる場合が多々あります。これまで、牛舎内で点滴作業を行う場合、床に敷料が敷かれているため、補液台の設置に当たっては、一旦敷料等を除去したうえでコンクリート床面に補液台を安定して設置する必要がありました。



写真1 補液作業

敷草の上であっても、補液台は安定して設置されている。

しかしながら、このような方法では、敷料の除去等に手間がかかること、敷料等の除去が不十分な場合には補液台が不安定な状態となり倒れることなどの問題がありました。

そこで、どのような場所でも補液台を安定して設置できる工夫を考案しました。

内容・特徴・効果

この考案は、①脚部分を爪状に改良することにより、補液台を安定して直接敷料上に設置できるようするとともに、②腕部分にゴム材を巻くことにより、作業者の安全性にも十分配慮するものです。

こうした工夫により、牛舎内における補液台の設置が簡易に行えるとともに、補液台の安定性が増すことになりました。

作成作業は簡単であり、市販の補液台を購入するよりもコストを大幅に削減することができます。



ゴムを巻いた腕部



高さ調整ねじ



爪状の足部

写真2 補液台の全体及び各パーツの拡大写真

提供：(独)家畜改良センター